○高等植物分布資料 (5) Materiels for the distribution of vascular plants in Japan (5)

○下北半島のカヤツリグサ科　最近古瀬義氏から下北半島のカヤツグサ科・ホシクサ科等の標本を多数に頂載した。其の中にカヤツリグサ科の植物で分布資料として特記すべきものの中，水島正美氏のリスト（資源研彙報 No. 40, 107-108, 同 No. 43-4, 54-4）に載つていないものを下に拾つて見る。

カヤツリスゲ *Carex Pseudo-Cyperus* Linn.　東通村荒沼より左京沼（古瀬義，16 June, 1955)。北海道に少数ケ所知られる。本州東北部では新記録であろう。

クリイロスゲ *Carex diandra* Schrank.　東通村荒沼より左京沼（古瀬義，16 June 1955)。北海道に数ケ所ある。本州唯一の産地であつた信州飯縄ノ原では最近見られない様である。

コホタルヰ *Scirpus hondoensis* Ohwi var. *leiocarpus* Ohwi.　東通村岩屋(古瀬義 18 Sept., 1954)。北海道に数ケ所産する。本州では甲斐国河口湖畔に次ぐ第二の産地である。序ながら河口湖畔でスヂヌマハリヰを採集（大井次三郎，小山鉄夫，3 Aug., 1953）した事を附記しておき度い。　（小山鉄夫）

キビナワシロイチゴ *Rubus Yoshinoi* Koidzumi　初め備中から記載され，大井：日本○植物誌 645 (1053) には‘本州（中国地方）に稀産す’と記されている。しかし杉本：日本樹木総検索表：159 (1936) には既に‘本州（磐城・東海道・中国)。稀’。と産地が書かれており，また小林・鈴木：福島県植物誌 **3**：14 (1954) には同定に疑問符がつけられているが‘大滝根山，東白川郡鎌倉山’があげられ，水島・横内：下水内郡植物誌 17 (1956) にも・載つていて信濃にも産することが分る。今春前原勘次郎氏からの送品中には肥後五木 (no. 4153 & 5289, 1942 & '57) 産があつて南は九州にも産することが明らかになつた。東大には百瀬静男氏採集の信州島々谷 (1935) 及び鉢伏山 (1936) の標本があり，また上州赤城山 (1927) の採品が 1 枚ある。磐城では上記鎌倉岳の外，西白河郡古関村関山（鈴木貞次郎 1932）と矢大臣山（鈴木昌友 1957）産の標本を実見し，更に本年阿武隈山脈の北端に近い岩代霊山北西方で採集したがこれが現在の所北限である。この外萩山泰一氏は磐城双葉郡高瀬川渓谷で，水島正美氏は松本郊外浅間温泉附近で採集されている。これらの産地は互にかなり離れているが，その中間地帯にもありそうに見えるので同好の方々に注意して戴きたい。なお上記標本はかなり多形であつてこのものの起源について再考を要するようにも思われる。　（原　寛）

○グンナイキンポウゲ *Ranunculus grandis* Honda var. *mirissimis* (Hisauchi) Hara　近年まで甲州三ツ峠が唯一の確実な産地と考えられてきた。関本平八：続栃木県植物総覧 p. 21 (1195) には同県の東南部から 3 個所の産地が報ぜられているが，標本を見る機会がなく，1956 年にこの類の細胞分類学的研究を行つた際も材料を入手できなかつた。本年関本氏の教示により 5 月 31 日上三川町田川畔を訪ねて開花中の本種を見出しよく観察することができた。この附近には普通のウマノアシガタは広く生えているが，グンナイキンポウゲは生育地がきわめて局限されているので今後絶滅しないようにしたいものである。既に地下に太い匍枝を出しており，黒沢氏が根端細胞で調べた結果，染色体数は三ツ峠産と同じく 28 であることを確認した。　（原　寛）